

# 子どもたちが自分らしくいられる居場所「鎌倉てらこや」（鎌倉市大船）

元々、お寺、青年会議所、ボランティアによるお寺イベント事業からスタートし、活動の幅を広げながら、現在のNPO法人に至る。自然・農業体験、お寺での合宿など親子で楽しめる本格的な体験イベントのほか、子どもの常設フリースペース「てらハウス」の運営なども行っている。

小木曾さん(事務局長)をインタビュー

フリースペース「てらハウス」

写真を撮ろうとしたら「麻雀はやめた方がいいかな…」と気遣ってくれましたが、ありのままを撮らせてもらいました



若いスタッフが多いですね

学生ボランティアです。子どもたちは、我々には「さん」付けなのに、学生のことは「〇〇くん」と呼んだり、気軽に相談しやすい存在です。彼らを見て子どもたちが将来ボランティアとして戻ってきてくれたり、いい影響を与えています。

行政の支援が必要なケースはありますか、行政に求めることはありますか

孤独・孤立の未然防止の観点でやっているのですが、行政の支援が必要な深刻なケースはあまりありませんが、もちろん必要なときはつなぎたいと思います。しいて言えば、学校との連携がもっと深まるといいですね。

「てらハウス」は商店街の中にありますが、地域の商店街とのつながりはありますか

商店街のお祭りに、子どもたちと一緒に屋台を出したり運営のお手伝いをしたりなどして、商店街のみなさまのご理解をいただきながら、関係性を築いています。

NPO同士の横のつながりがほしいと感じることがありますか

私たちが主な対象としている子どもたちという視点に立った時、子どもたちが関わる活動の幅を広げるという意味で様々なつながりがあった方がいいと思います。子どもたちの求める活動に応じて、他の団体さんの情報を提供したり、若い大学生が多いという、私たちの強みに子どもさんをつなぎたいと紹介を受けることもあります。

非営利団体が活動を継続するために大事なことで、どんなことが考えられますか

企業の寄付など継続的に協力をお願いできる仕組みや、収支がしっかりしていることは大事だと思います。私たちの場合は、活動の立ち上げの時からつながりのある青年会議所のメンバーの皆さんのご縁もあって、税理士さんのアドバイスを受けていて、収支はしっかりしている方だと思います。